

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室

実施報告書

奈良県 奈良市立平城中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実 施 内 容

■期 日 : 2020年2月13日 (木)

■ク ラ ス : 2年3組 (29名) 、2年4組 (30名)

■オリンピアン : 阪本 章史 先生 (自転車) 【出場オリンピック/北京大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、BMX競技について紹介。実際に自転車に乗りデモンストレーションした後、準備体操(ダイナミックストレッチ、ラダー運動)に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・8の字跳びを実施。



4. まとめ



・各チームの成績を振り返り、色々な作戦に挑戦した結果であり、失敗したとしてもまた次への材料にすればよい。スポーツや人生においても、挑戦することが大切である。次の座学の時間ではオリンピックについて学んでほしいと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・オリンピックについて話したいと授業の目的を確認し、映像を見せながら競技について解説。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、全力で取り組む」「フレンドシップ＝友情、協力、お互いを理解する、チームワーク」「リスペクト＝敬意/尊重、感謝、フェアプレー、ルールを守る」と紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間に感じたことを書き出し、オリンピックバリューに当てはめてみよう。
- 発表：3組は各班の代表者1名が、4組は各班全員が前に出て発表。（抜粋、順不同）
- 「目標に向かって頑張ったら点数が上がった」「縄跳びで引っ掛かっても諦めずに一生懸命跳べた」(エクセレンス)
 - 「皆で協力して回数を伸ばすために話し合った」「意見を伝え合えた」「跳ぶ人に合わせて縄の長さを調節した」(フレンドシップ)
 - 「他のチームの団結力等がすごかった、そこから学ぶことができた」「縄を回してくれた人に感謝の気持ちを伝えることができた」(リスペクト)

4. まとめ



- ・運動の時間にオリンピックバリューを感じられたと思う。不正解はなく、各自が感じたことが正解であり、それが皆のオリンピックバリューである。
- ・オリンピックバリューはオリンピック選手だけのものではなく、皆の日常生活の中でも感じられる価値観。スポーツ以外でもオリンピックバリューを活かせる場面はたくさんあるので、オリンピック教室で学んだことを忘れずにこれからの人生を歩んでほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日 : 2020年2月14日 (金)

■ク ラ ス : 2年1組 (30名)、2年2組 (30名)

■オリンピアン : 佐藤 光浩 先生 (陸上競技) 【出場オリンピック/アテネ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、今日は自身の経験を通して学んだことを伝えていきたいと話し、オリンピックバリューについてオリンピアンが大切にしている考え方であるとして、エクセレンス=卓越、全力で取り組む、フレンドシップ=友情、チームワーク、リスペクト=敬意/尊重、思いやりと意味を説明し、運動と座学の時間では、この3つを意識して取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・7種目(馬跳び、ボール運び、ドリブル、2人3脚、目隠し誘導、ダッシュ、4種目混合)の班対抗リレーを実施。

4. まとめ



・オリンピックバリューについて理解できたかを問い掛けながら、冒頭に伝えた、全力で取り組む、チームワーク、思いやり、等が実践できたかを確認。次の座学の時間ではオリンピックバリューについての説明と運動の時間を振り返りたいと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・オリンピックシンボルや新しい国立競技場について説明。
- ・運動の時間に意識したオリンピックバリューについて紹介し、個人ワーク後、グループワークに移る。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間を振り返って各自が感じたことを共有し、実践したオリンピックバリュー(感じたこと、行ったこと)を具体的に書き出してみよう。
- 発表：代表班の1名が発表。(抜粋、順不同)
- 「これまでの自分を超えられるように頑張った」「苦しい競技でも協力してやりとげた」「仲間と楽しく笑い合ってきた」(エクセレンス)
 - 「ボール渡しのときに皆で声を出しながら行った」「声を掛け合えた」「失敗しても励まし合えた」(フレンドシップ)
 - 「馬跳びで相手の事を考えて高さを調節した」「順位発表のときにしっかり拍手ができた」「2人3脚のときに歩幅を狭くした」(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけが大切にしている価値ではなく、誰の人生にも当てはまる。皆もオリンピックバリューを大切に、今よりさらに成長して欲しい。自分の可能性を信じて、今後も前向きに頑張りたいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



2年2組



■ 集合写真
2年3組



2年4組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

